

栗谷ツ遺跡 第62地点

遺跡名	栗谷ツ遺跡
よみがな	くりやついせき
調査地点	第62地点
主な時代	平安時代（約1200～1100年前）、中近世（約500～300年前）
調査地	富士見市大字水子字北別所4954-1、4955-1、4959-1、4964-2他
調査面積	9,188㎡の内、2,622㎡
調査期間	令和4年5月19日～5月23日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 平安時代竪穴住居跡1軒、中近世堀跡1条</p> <p>【出土した主な遺物】 石製紡錘車、甕 等</p> <p>【概要】</p> <p>栗谷ツ遺跡は武蔵野台地縁辺部に立地しています。遺跡南部は柳瀬川から南西に向かって開析された小支谷が入り込み、この小支谷の南側の対岸には北通遺跡が立地しています。</p> <p>本地点からは平安時代の竪穴住居跡1軒、中近世の堀跡1条が確認され、竪穴住居跡内からは土師器の甕等とともに石製の紡錘車（糸を紡ぐ道具）が出土しました。石製紡錘車の表裏には、文字のような細かい線刻が刻まれています。現在のところまだ解読できておりませんが、他の出土事例では日付を線刻したり、仏画を線刻していることから、解読が進めば貴重な資料になる可能性があります。</p>



平安時代竪穴住居跡完掘状況



平安時代竪穴住居跡遺物出土状況



出土した石製紡錘車（線刻あり）



確認された中近世の堀跡